

第 4 問

【解答】

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	材 料	853,200	買 掛 金 材 料 副 費	790,000 63,200
(2)	材 料 副 費 差 異	16,800	材 料 副 費	16,800
(3)	仕 掛 品 製 造 間 接 費	1,087,200 36,000	賃 金 ・ 給 料	1,123,200
(4)	仕 掛 品	3,261,600	製 造 間 接 費	3,261,600
(5)	操 業 度 差 異	122,400	製 造 間 接 費 予 算 差 異	66,400 56,000

【解説】

(1) 材料購入に関する仕訳

材料購入時の仕訳である。材料を購入したため、原価を「材料」勘定で処理し、借方に記入する。

材料の購入原価は、材料副費の予定配賦額も含め、次のように計算する。

$$\text{材料の購入原価} : \underbrace{(500 \text{ kg} \times 1,500 \text{ 円/kg})}_{\text{素材の購入代価}} + \underbrace{40,000 \text{ 円}}_{\text{工場消耗品の購入代価}} + \underbrace{63,200 \text{ 円}}_{\text{材料副費の予定配賦額}} = 853,200 \text{ 円}$$

素材と工場消耗品の購入代価については「買掛金」勘定で、材料副費については「材料副費」勘定で処理し、ともに貸方に記入する。

新版日商簿記 2 級工業簿記 テキスト p.35 参照

(2) 材料副費差異に関する仕訳

材料副費の予定配賦額と実際発生額との差額は、「材料副費配賦差異」勘定に振り替える。

$$\text{材料副費配賦差異} : \underbrace{63,200 \text{ 円}}_{\text{予定配賦額}} - \underbrace{80,000 \text{ 円}}_{\text{実際発生額}} = -16,800 \text{ 円 (借方差異)}$$



新版日商簿記 2 級工業簿記 初版第 1 刷 : Web ページ掲載の補遺参照  
2 刷以降 : テキスト p.35 参照

## (3) 消費賃金に関する仕訳

賃金の消費額については、それが直接労務費である場合には「賃金・給料」勘定から「仕掛品」勘定、間接労務費である場合には「賃金・給料」勘定から「製造間接費」勘定にそれぞれ振り替える。なお、直接作業時間分を直接労務費、間接作業時間と手待時間分を間接労務費として処理する。

直接労務費： 906 時間 × 1,200 円/時 = 1,087,200 円

間接労務費： (20 時間 + 10 時間) × 1,200 円/時 = 36,000 円

新版日商簿記 2 級工業簿記 テキスト p.55 参照

## (4) 製造間接費の予定配賦に関する仕訳

製造間接費を予定配賦した場合、予定配賦額を「製造間接費」勘定から「仕掛品」勘定に振り替える。なお、製造間接費予定配賦額は、実際配賦基準数値（直接作業時間）に予定配賦率を乗じて算出する。

製造間接費予定配賦率：  $\frac{40,608,000 \text{円 (年間の製造間接費予算額)}}{11,280 \text{時間 (年間の予定総直接作業時間)}} = 3,600 \text{円/時}$

製造間接費予定配賦額： 906 時間 × 3,600 円/時 = 3,261,600 円

新版日商簿記 2 級工業簿記 テキスト p.88~p.90 参照

## (5) 製造間接費配賦差異に関する仕訳

製造間接費予定配賦額と実際発生額との差額は、製造間接費配賦差異として把握し、処理する必要がある。

また、この差額をさらに予算差異と操業度差異に細分し、「予算差異」勘定と「操業度差異」勘定に振り替えることが要求されることもある。なお、製造間接費予算額について変動費と固定費に分かれていないため、固定予算として各差異を算定する。

製造間接費配賦差異： 予定配賦額 - 実際発生額

3,261,600 円 ((4)より) - 3,328,000 円 = -66,400 円 (借方差異)

予算差異： 実際操業度における予算額 - 実際発生額

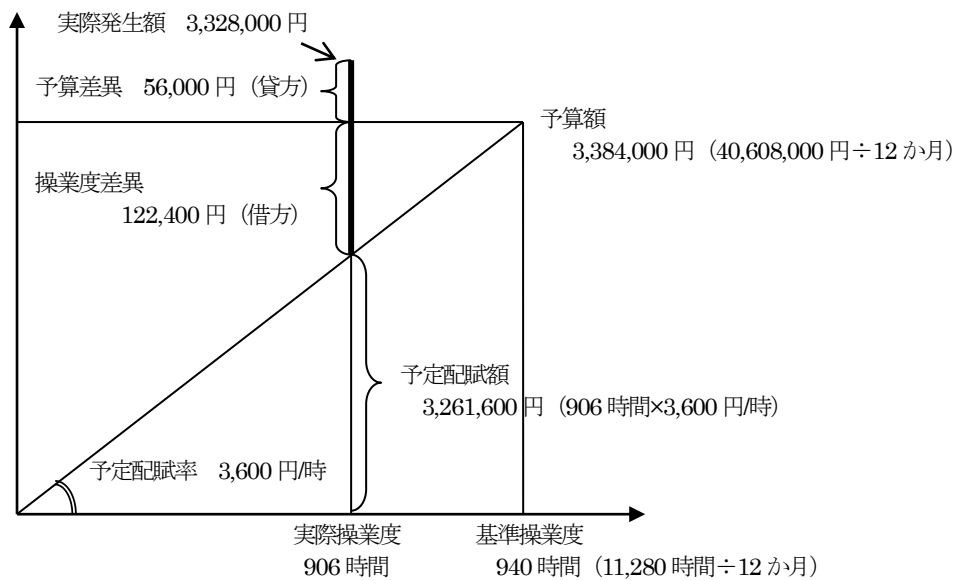
3,384,000 円<sup>1)</sup> - 3,328,000 円 = 56,000 円 (貸方差異)

※1) 40,608,000 円 ÷ 12 か月 (予算額を月額にする)

操業度差異： 予定配賦額 - 実際操業度における予算額

3,261,600 円 - 3,384,000 円 = -122,400 円 (借方差異)

なお、固定予算による差異分析では、次のような図を描き、差異を算定すると理解しやすい。



新版日商簿記 2 級工業簿記 テキスト p.86~p.90 参照

## 第 5 問

### 【解答】

全部原価計算による損益計算書		(単位：円)	直接原価計算による損益計算書		(単位：円)
売 上 高	(	7,142,400)	売 上 高	(	7,142,400)
売 上 原 価	(	5,022,000)	変 動 売 上 原 価	(	2,790,000)
配 賦 差 異	(	168,000)	変 動 製 造 マー ジ ン	(	4,352,400)
売 上 総 利 益	(	1,952,400)	変 動 販 売 費	(	558,000)
販 売 費	(	838,000)	貢 献 利 益	(	3,794,400)
一 般 管 理 費	(	720,000)	固 定 費	(	3,400,000)
営 業 利 益		394,400	営 業 利 益	(	394,400)

### 【解説】

全部原価計算と直接原価計算による損益計算書の作成に関する問題である。

#### (1) 全部原価計算による損益計算書の作成

##### ① 売上高の計算

売上高：1,116 個 × 6,400 円/個 = 7,142,400 円

##### ② 売上原価の計算

1) 加工費は予定配賦されているため、予定配賦率を算定する。

$$\text{変動加工費予定配賦率} = \frac{1,800,000 \text{円}}{1,200 \text{個}} = 1,500 \text{円/個}$$

$$\text{固定加工費予定配賦率} = \frac{2,400,000 \text{円}}{1,200 \text{個}} = 2,000 \text{円/個}$$

##### 2) 売上原価の計算

売上原価：1,116 個 × (1,000 円/個 + 1,500 円/個 + 2,000 円/個) = 5,022,000 円

##### ③ 配賦差異の計算

本問で生じる差異は、固定加工費配賦差異であり、次のように算定する。なお、借方差異であるため、売上原価に加算する。

$$\frac{1,116 \text{個}}{\text{当期製品生産量}} \times 2,000 \text{円/個} - 2,400,000 \text{円} = -168,000 \text{円 (借方差異)}$$

## ④ 売上総利益の計算

$$\text{売上総利益} : 7,142,400 \text{ 円} - (5,022,000 \text{ 円} + 168,000 \text{ 円}) = 1,952,400 \text{ 円}$$

## ⑤ 販売費の計算

$$\text{販売費} : \frac{1,116 \text{ 個}}{\text{当期製品販売量}} \times 500 \text{ 円/個} + 280,000 \text{ 円} = 838,000 \text{ 円}$$

## ⑥ 一般管理費の計算

$$\text{一般管理費} : 720,000 \text{ 円 (資料]3 より)}$$

## ⑦ 営業利益の計算

$$\text{営業利益} : 1,952,400 \text{ 円} - (838,000 \text{ 円} + 720,000 \text{ 円}) = 394,400 \text{ 円}$$

## (2) 全部原価計算による損益計算書の作成

## ① 売上高の計算

全部原価計算の場合と同じ

## ② 変動売上原価の計算

$$\text{変動売上原価} : 1,162 \text{ 個} \times (1,000 \text{ 円/個} + 1,500 \text{ 円/個}) = 2,790,000 \text{ 円}$$

## ③ 変動製造マージンの計算

$$\text{変動製造マージン} : 7,142,400 \text{ 円} - 2,790,000 \text{ 円} = 4,352,400 \text{ 円}$$

## ④ 変動販売費の計算

$$\text{変動販売費} : \frac{1,116 \text{ 個}}{\text{当期製品販売量}} \times 500 \text{ 円/個} = 558,000 \text{ 円}$$

## ⑤ 貢献利益の計算

$$\text{貢献利益} : 4,352,400 \text{ 円} - 558,000 \text{ 円} = 3,794,400 \text{ 円}$$

## ⑥ 固定費の計算

$$\text{固定費} : 2,400,000 \text{ 円} + 280,000 \text{ 円} + 720,000 \text{ 円} = 3,400,000 \text{ 円}$$

## ⑦ 営業利益の計算

$$\text{営業利益} : 3,794,400 \text{ 円} - 3,400,000 \text{ 円} = 394,400 \text{ 円}$$

新版日商簿記 2 級工業簿記 テキスト p.83～p.86 参照

新版日商簿記 2 級工業簿記 テキスト p.211～p.215 参照